

モデル事業名	限界集落緊急対策 「命見守り ほっと安心」のモデル集落事業
活動団体名	社会福祉法人まんのう町社会福祉協議会 琴南・満濃・仲南地域福祉推進委員会 ほっと安心委員会
ホームページ	http://www.manno-syakyo.jp/
担当者名	篠原 宝子
連絡先	電話番号 (0877) 77-2991、Eメールアドレス manno-syakyo@mg.pikara.ne.jp
活動地域	香川県 まんのう町全域

● 活動地域の概要

まんのう町は、香川県南西部に位置し、面積は約 194.33 平方キロメートル、町全域が過疎地域に指定されている、農山村である。

人口 20,072 人 7,115 世帯、人口は、減少しつづける一方で高齢者のみの世帯や単身高齢者が増加しており、1 世帯の構成数は、2.82 人である。

65 歳以上高齢者：6,067 人 高齢化率：30.2% 単位自治会数：232 自治会
介護保険認定者数：1,196 人 民生委員・児童委員数：62 名

(平成 22 年 12 月 1 日現在 まんのう町資料より)

出生数：145 人 出生率：7.1 死亡者数：262 人 死亡率：12.8

(平成 21 年 まんのう町健康増進課資料より)

一人暮らし高齢者数：581 人 (平成 21 年町社協実態調査資料より) のどかな農山村地域→



【位置図】



● 活動地域の課題

1、人口減少、少子高齢化の進展により、家庭や地域の機能が低下し地域内で、一人暮らし高齢者の孤独死、悪徳商法、防犯、認知症高齢者の介護、高齢者、児童等の虐待、災害時の要援護者支援、さまざまな生活課題が表面化してきた。

2、民生委員・児童委員の活動と福祉委員活動の連携が不十分なため地域の状況を把握しきれていない。また、福祉委員は、輪番にて変更していく集落もあり、集落間の差異が生じている。

3、地域づくりは、行政や社協、特定のボランティアやリーダーだけではできない。「自分でできることは自分で、一人でできないことは地域や仲間そしてみんなで」というともに生きるまちづくりが求められており、そのためには、相互扶助の精神や、「助けられ上手」の意識づくりを進め、地域で問題を発見し、解決していくコミュニティ活動をすすめることが課題となっている。

● 活動の内容

(全体)

1、見守り・声かけ活動のねらい

- ①見守り、声かけを通してコミュニティ活動の活性化を図る。
- ②隣近所とのつながりを深め、お互い様の共助の社会づくりを進める。
- ③福祉委員活動や民生委員活動と連携することにより、生活課題や福祉ニーズを早期に発見したり、必要な機関へ速やかにつなげるネットワークづくりを進める。

2、集落内での進め方

- ・集落内で話し合いモデル事業についての共通理解を図り、役員を決める。
- ・集落協定の内容（見守られる人の対象基準・範囲、見守り方法、独自の取り組み）について申し合わせる。
- ・世帯参加者名簿、ほっと安心カードを各世帯に配布して作成してもらう。
- ・地域福祉MAPづくりをする。
- ・見守り編成、見守りチームを決める。
- ・見守り声かけ活動や独自のコミュニティ活動を実施する。
- ・活動の評価を行い、実績報告書を作成する。

3、見守り・声かけ活動の支援内容

- ・事業推進支援組織（ほっと安心委員会・命見守り研究会）の設置、運営をする。
- ・モデル集落事業についての説明会を開催し、新規モデル集落の募集をする。
- ・モデル集落説明会（新規指定、継続指定）を開催する。
- ・地域福祉MAPづくり研修会を開催する。
- ・モデル集落情報交換会を開催する。
- ・モデル集落への各種指導者を派遣したり、関係機関へ依頼する。
- ・報告書等の取りまとめ集計やアンケート調査により課題や進捗状況を把握する。 地域福祉MAPづくり研修会
- ・モデル事業報告会を開催し、事業の状況を広く一般住民や関係機関に周知し事業の普及啓発を図る。
- ・モデル事業の活動状況について随時広報紙に掲載し啓発をする。
- ・モデル集落への活動費等実費弁書費の支給



継続集落事業説明会



新規集落事業説明会



地域福祉MAPづくり研修会

(直近1年間の進捗など)

1、モデル指定の状況

- ①平成22年度新規モデル集落：9集落（172世帯）指定
- ②2年目、3年目の継続集落：62集落（1,458世帯）
 - ・21年度指定集落・・・13集落（246世帯）
 - ・20年度指定集落・・・51集落（1,212世帯）
- ①+② 計71集落 1,630世帯で見守り、声かけ活動が展開されている。



救急法・防災訓練

2、会議等開催状況

- ～4月16日 モデル集落事業の取り組み調査実施
- 6月15日 第5回命見守り研究会開催、新規モデル集落募集開始（7月末まで）
- 6月30日 継続集落事業説明会開催
- 8月3日 ほっと安心委員会、命見守り研究会合同会議開催（新規集落決定）
- 9月1日 新規モデル集落事業説明会開催、地域福祉MAPづくり研修会開催
- 12月11日 まんのう町社会福祉大会にて、事業報告及び次年度実施
- 4月～12月 地域福祉MAPの見直し（継続）、地域福祉MAPづくり（新規）



町社会福祉大会にて説明

3、事業助成金：月末締め翌月10日支給

● 活動の成果

・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- 1、平成21年度末では、見守られる人563人、見守った人1,372人となり、見守り、声かけ活動が定着した。
- 2、モデル集落の多くが、見守り声かけ活動をより効果的に実施するために、防災訓練などの防災活動や安全パトロールなどの防犯活動や認知症の研修等、福祉活動など独自の取り組みを実施しコミュニティ活動が活発化した。

・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- 1、平成22年度新規モデル集落：9集落（172世帯）指定。継続集落とあわせると全世帯の23%が実施している。
- 2、見守り活動の集落全体の評価は、予想以上の効果と評価した集落が9集落、よかった評価した集落が51集落、未達成と評価した集落はわずか2集落だった。また、モデル集落代表者に行った見守り活動の成果のアンケート調査によると、集落内がまとまり、情報の共有化ができていろいろな話し合いができるようになった。集まる機会が増え、住民同士の交流ができた。集落内の再発見、再認識ができた。などと答えた代表者が多く、当初ねらいとしていたコミュニティ活動の活性化は達成している。
- 3、命見守り研究会とほっと安心委員会の合同会議を開催し、次年度以降の活動継続と全町への普及に向けての検討を行った。
- 4、本年度より、見守り声かけ活動が自殺予防対策にも有効とのことで、県中讃保健福祉事務所と連携して講演会等を実施し、活動の普及啓発を行う。



合同会議開催



自殺対策にも有効

● 今後の課題及び展望

・課題 (活動を通して発見された課題等を記入)

- 1、リーダーには、自治会長になる場合が多いが、輪番整で年度で交代すると活動が休止状態になる集落も見受けられた。リーダー育成やリーダーを支援する仕組みが必要。また、自治会の運営支援には、町行政との連携が不可欠。
- 2、集落単位での見守りでは、自治会に加入していない人が漏れてしまう。もれなく見守りを行うには、自治会未加入者やアパート、新興住宅地などの自治会未設置地域へのテコ入れが課題である。
- 3、見守られる人の選定が困難だったとのアンケート調査結果やリーダーの声が聞かれた。お互い様、助けられ上手の意識づくり浸透させ、SOSを発信しやすい土台づくりが課題である。
- 4、住民同士の交流活動を活性化するために、誰でも気軽立ち寄り、ほっとできる地域での居場所づくりが課題である。

・展望 (今後の取り組みや検討について記入)

○次年度からの取り組み

- 1、「見守り 声かけ」をコミュニティ活動の基礎に位置づけ全町に広げていく。
 - (1) ほっと安心カードを全世帯へ配布する。(家族間集落内で緊急時の対応を話し合うきっかけとする。)
- 2、リーダー育成
 - (1) 福祉委員活動を活性化する。
 - (2) 「こころの健康づくり」としてメンタルヘルスサポーター養成研修を支援する。
 - (3) 小地域いきいきふれあいサロン等の地域での身近な居場所づくりを進める。